

文庫番号	タイトル	著者名	掲載雑誌	カテゴリ	目的	対象患者	結果	研究デザイン
1	入院を経験した全身体工エリテマートーデス女性患者における就労継続する上での困難と対処法	西山こい他	日本慢性看護学会誌,2021;15(2):57-64.	セルフケア コーピング	入院を経験した全身体工エリテマートーデス女性患者が就労継続する上での困難と対処法を明らかにする。	診断されてから1回以上入院を経験し、就労している20~40歳代の女性全身体工エリテマートーデス患者	就労継続のための対処法は、「円滑な復帰に向けた準備と調整」「休養を得るための戦略」「心の健康管理」「就労継続と体調コントロールを両立するために仕事を選択」	質的研究
2	生物学的製剤で治療中の関節リウマチ患者が療養生活で抱くネガティブに対処しようとする心の働き	平井孝次郎	川崎市立看護短期大学紀要,2021;26(1):1-11.	セルフケア コーピング 自己効力	生物学的製剤で治療中の関節リウマチ患者が療養生活で抱くネガティブな思いに対処しようとする心の働きを明らかにする。	20歳以上で生物学的製剤による治療を受けている関節リウマチ患者	ネガティブな思いに対処しようとする心の働きは、「心のよりどころを作ろうとする」「現状を受け入れようとする」「気持ちを楽しもうとする」「周囲との調和を意識しようとする」	質的研究
3	女性関節リウマチ患者の抑うつに対するストレスマネジメントの検討	浜崎美和 他	臨床リウマチ,2022;34(4):275-282	セルフケア 自己効力	女性関節リウマチ患者を対象に、抑うつに対するストレスマネジメントの実態を明らかにする。	女性関節リウマチ患者	ストレスの内容は、病気や仕事。ストレス対処への自信は、抑うつ傾向にあると低値。	量的研究
4	教育入院プログラムを受けた学童後期から思春期初発1型糖尿病患者の療養生活における困難と対処	中村結実 他	日本小児看護学会誌,2023;32(2):44-50.	コーピング	「発症時教育入院プログラム」を受けた1型糖尿病の学童後期から思春期の子ども退院後の療養行動における困難と対処を子どもの体験から明らかにする。	プログラムを受け退院した後2年以上経過し、HbA1Cが安定し病状が落ち着いたという学童後期から思春期(11歳~15歳)の1型糖尿病患者	ストレス対処法は、「療養行動を生活の一部として受け入れ、気持ちを切り替える」「病名や療養行動は、必要なだけに必要な心を受入れる」「療養行動は周囲に不自然なく短時間で安全に行う」「友達や先生と思いを共有して療養行動を継続する」「緊急時は先生の手を借りながら運動時や学校で低血糖にならないように工夫する」	質的研究
5	シェーグレン症候群患者におけるドライアイに対する重曹うがいの使用感調査—唾液緩衝能を考慮したセルフケア—	東直人 他	臨床リウマチ,2023;35(1):35-43.	セルフケア	シェーグレン症候群患者における重曹うがいの有用性を調査する。	重曹うがいを行ったことがあるシェーグレン症候群患者	飲み薬以外の対策方法：こまめな飲水。うがい。飴・キャンディー・ガム。歯を磨く。重曹うがいの認知度：医師から紹介されるまで知らなかった(55.6%)。使用感：とてもいい(74.1%)。因っている症状の変化：減った・軽くなった(66.7%)。今後も続けようと思うか：思う(74.1%)。	量的研究
6	就労血液透析患者の自己管理行動とワーク・ファミリー・コンフリクトに関する研究	山本万里子 他	バイオメディカル・ファジー・システム学会誌,2023;25(1):55-64.	セルフケア 自己効力	就労血液透析患者の自己管理行動とワーク・ファミリー・コンフリクトを明らかにし、透析と自己管理、および仕事と家庭の両立に向けた支援につなげるための示唆を得る。	外来血液透析治療を受けている就労患者	自己管理行動得点は就労者が非就労者より低い。自己管理行動の不良率はワーク・ファミリー・コンフリクト得点が高く、中でも「身体と心理社会生活の調整」の不良率は、仕事と家庭の役割間葛藤があるといる。	量的研究
7	関節リウマチ患者の生物学的製剤自己注射導入に関する意思決定プロセス	上奥麻実 他	日本リウマチ看護学会誌,2022;3(1):1-5.	セルフケア 意思決定	関節リウマチ患者の生物学的製剤を導入までの意思決定プロセスを明らかにすること。	生物学的製剤の自己注射を導入している関節リウマチ患者	「自己注射未経験による恐怖」は、「医療従事者との信頼関係」により軽減されていたが「先の見えない不安」があり、それに対しては、「身近に相談する相手や支えてくれる人の存在」や「病気や治療の知識」を習得することにより、今までと変わらな「ライフスタイルの継続」を願う者があった。そこには「病気をよくしていきたい一途な気持ち」が根底にあることが明らかになった。	質的研究
8	アダリムマブ皮下注シリンジからペンへの切り替えに伴う使用感の変化と切り替えに同意しなかった患者の調査	鈴木絵夢 他	臨床リウマチ,2022;34(3):204-212.	セルフケア 意思決定	リウマチ性疾患患者におけるアダリムマブ(ADA:ヒュミラ®)シリンジからペンへの切り替えによる使用感の変化を明らかにする。また、切り替えに同意しない患者の特徴を検証する。	ADAシリンジからペンに切り替えたリウマチ性疾患患者	ペンに切り替えた患者では、「不安感・恐怖感」、「注射時の痛み」、「全体的な満足度」においてペンが優れていた。ADAシリンジ使用時から、自己注射の患者に限定すると、「同意・前向きな気持ち」「注射の打ちやすさ」が加わった。共同意思決定によって、ペンへの切り替えに対して不同意に変化した患者があった。	量的研究
9	持続皮下インスリン注入療法を行う1型糖尿病患者のある小児・青年の皮膚トラブルとスキンケア	中村伸枝 他	千葉看護学会誌,2022;27(2):21-29.	セルフケア	持続皮下インスリンポンプ療法を行う小児・青年の皮膚トラブル及び皮膚トラブルへの対応、予防について、季節や発達段階の視点から明らかにし、皮膚トラブルの予防に向けた支援への示唆を得る。	持続皮下インスリンポンプ療法を3か月以上継続して使用している、2歳から20歳の小児・青年1型糖尿病患者	皮膚トラブルが生じたときの対応：季節によらず全員が、注入/挿入部位をずらし、ステロイド軟膏を塗布。皮膚トラブルの予防：固定テープを外した部位に軟膏を塗る。入浴後にボディクリームを塗るは、両季節で年少児、年長者共に行われていた。何もしていない者は年長者に多かった。	量的研究
10	成人期発症1型糖尿病患者のセルフケア行動の実態	土川睦子	せいのけ看護学会誌,2021;11(2):24-29.	セルフケア	成人期発症1型糖尿病患者のセルフケア行動の実態を明らかにする。	20歳以上64歳未満の成人期発症1型糖尿病患者	医療従事者から指導されている内容(血糖自己測定、薬物)は実施率が高く、医療従事者の指導がされていない内容(運動、フレックアップ)の実施率は低い傾向が見られた。	量的研究
11	成人期発症1型糖尿病患者におけるセルフケア能力に関連する心理・社会的要因	中島啓子 他	日本糖尿病教育・看護学会誌,2021;25(1):83-92.	セルフケア	成人期発症1型糖尿病患者のセルフケア能力に関連している心理・社会的要因を明らかにする。	成人期(18歳~64歳)に診断され、診断から半年以上経過した75歳未満の1型糖尿病患者	セルフケア能力に最も強く関連しているのは、家族サポート。セルフケア能力は、＜情報解釈の複雑性＞からの直接効果と、＜生活予測不能性＞＜関与力への自信の揺らぎ＞からストレス対処力を介しての間接効果を受けている。	量的研究
12	関節リウマチ患者自己注射におけるデバイスの有用性の実態調査	西浦聡子 他	奈良県立医科大学看護研究ジャーナル,2021;17:57-65.	セルフケア	関節リウマチ患者治療における自己注射時のデバイスの有用性を明らかにする。	生物学的製剤の自己注射を行っており、デバイスがSY(シリンジ)からAI(オートタイプ)に変更した関節リウマチ患者。	安全性の面で、SYよりAIの方に肯定的な回答した項目は、注射器の見た目、使いやすさ・ぐらつきの有無。教育の面で、SYよりAIに肯定的な回答をした項目は、デバイスの使いやすさ、使用時の慣れ・練習の必要性。満足度の面で、SYよりAIに肯定的な回答をした項目は注射時の痛み。満足度については、SYの方がAIより肯定的な回答があった。痛みに関しては、1部の製剤においてSYよりAIの方により痛みの増強を感じていた。	量的研究
13	関節リウマチ患者の主観的症候(疼痛、倦怠感、朝のこばり)に影響する心理・社会面の検討	平井孝次郎 他	日本看護科学会誌,2023;43:666-675.	自己効力	関節リウマチ患者の主観的症候(疼痛、倦怠感、朝のこばり)に影響する心理・社会面を検討し、看護支援の示唆を得る。	外来通院する20歳以上の関節リウマチ患者	疼痛に影響していた心理・社会面は、「志気」のみであった。倦怠感に影響していた心理面は、「志気」に加えて「受容」だった。社会面は、「他者依拠」と「連帯・積極性」であった。朝のこばりに影響していた心理・社会面は、倦怠感に影響のあった要因に加え、「攻撃的ユーモア」、LSNS-6であった。	量的研究
14	中高年関節リウマチ患者の健康行動に対する自己効力感に関する要因	佐藤由佳 他	日本慢性看護学会誌,2022;16(1):1-10.	自己効力	中高年関節リウマチ患者の健康行動に対する自己効力感に関連する要因を、関節リウマチ患者の個人的要因、関節リウマチの状態、心理的要因、社会的要因として、健康行動に対する自己効力感に関連する要因を明らかにする。	40歳以上の関節リウマチ患者	関節リウマチの状態：自己効力感の低い患者の方が、疾患活動性が高かった。心理的要因：自己効力感の低い患者の方が、不安や抑うつが強い患者が多かった。社会的要因：自己効力感の低い患者の方が、ソーシャルサポートを得ることができていないと感じている患者が多かった。行動的サポートに有意差が認められたが、情動的サポートに有意差は見られなかった。	量的研究
15	人工膝関節全置換術患者における術前の心理的要因が術後疼痛に与える影響	嶋田有紗 他	理学療法のみ,2021;32(1):23-29.	自己効力	人工膝関節全置換術患者を対象とし、手術前の心理的要因が手術後の急性痛に影響するかどうかを検討する。	人工膝関節全置換術を受けた変形性股関節症患者	破局的思考と手術後安静時痛は有意な正の相関を示していた。疼痛に対する自己効力感が低い患者ほど手術後急性時安静時痛が強い。	量的研究
16	保存期慢性腎臓病患者へのコンコグダンス概念を活用した療養援助アクションリサーチによる取り組み	新井里美	日本看護科学会誌,2021;41:476-485.	意思決定	2017年に実施した入退院を繰り返す保存期慢性腎臓病患者11名の療養体験に関するインタビュー結果報告会とコンコグダンス概念の勉強会を通して、看護師の療養指導時の認識や実践にどのような変化がおこるのかを記述し、そのプロセスを考察する。	腎臓内科、血液・リウマチ膠原病、腫瘍内科混合の病棟の看護師	勉強会の後の療養指導時の認識や実践の変化として、「一方的な指導が問題だと話す」ことから「患者の言葉で語ってもらうこと」を意識した。等々の認識として、「先入観をもたずに患者自身の状況を意識して話をきいた」ことで「患者の生活に合わせた代替案を話し合った」等の実践の変化がみられた。	質的研究
17	服用中の授乳婦への薬剤管理指導に関する実態調査	川原田由佳梨	日本病院薬剤師会,2021;57(3):329-334.	意思決定	服薬中の授乳婦の授乳に関する希望と薬学的介入の実態を調査する。	服薬について検討する目的で周産期カンファレンスの対象となった患者	授乳方針に関する意思決定率では、介入後の上昇が認められた。	量的研究
18	発症2年以内に診断された関節リウマチ患者が寛解に至る過程での治療に関する認識	松田真紀子	兵庫医療大学紀要,2021;9(1):9-20.	意思決定	発症2年以内に診断された関節リウマチ患者が発症から寛解に至るまで、医師が提示する治療について捉えていた認識を明らかにする。	外来通院している20歳以上で、生物学的製剤が薬物療法として導入された2003年以降に発症した関節リウマチ患者	診断の時期には、「診断に至った経緯の納得と今後の治療への不安」が示され、未知の病状と捉え葛藤した末に診断がつくことで安心すると共に、今後の治療に対する不安の認識。治療の時期には、「医師との関係から生じる治療に対する葛藤と安心感」を得ながら、「戸惑いながら納得し治療を受け入れ継続する」という、医師と信頼関係を築きながら寛解を目指す認識。治療に臨み「薬を知りたくし、」「治療効果を身体で感じる」という認識。寛解の時期には、「治療効果から寛解を捉える」、「将来について考えられるほどの身体の状態」と、将来や就労、新たなことへの挑戦を考えられるほどの身体の状態であるという認識。	質的研究